法華経における妙法（saddharma）の概念作用（conception）の構造機能分析

――その図式的解明――

伊藤瑞叡

哲学において哲学の記号化は、分析哲学で試みられている。また形相化としての図表化は、西洋では論理実証主義哲学のラッセル『西洋の知恵　図説哲学思想史』（一九五九　東宮隆訳　昭43、社会思想社）やリューンズ『肖像入り哲学史』（一九五九）によって試みられている。

わが国では西田幾多郎『哲学の根本問題』正続（一九五九―四、岩波書店）中の図式的説明が先鞭をつけ、それは九鬼周造『西洋近世哲学史稿』上下（一九四八、岩波書店）や田辺元『哲学入門』全四巻（一九四九―五二、筑摩書房）の中にも見出される。

これらを承けて本多修郎『図説哲学入門』（一九六八、昭43、理想社）、『図説現代哲学入門』（一九七〇、昭45、理想社）は、図解を試みて、その完成の域に達しているかに見える。小阪修平『イラスト西洋哲学史』（一九八四、ＪＩＣＣ出版局）も捨てがたい。

しかし仏教学において、仏教思想の図表化・図式化・図説化、すなわち図解は、W・M・マクガヴァン『大乗仏教序説』（*Introduction to Mahāyāna Buddhism*　一九二二、昭53、大東出版　拙訳註）によって、少しく試みられている。

図表・図式による説明・解明（＝図解）は、論述の文章や内容の意趣やの誤読・謬解を最少限に制止する機能をもつ。むしろ適正な図解は文意を如実に伝達する可能性が高い。複雑な概念の構造と他の概念との関係や機能などを適切（＝内容を判明 distinct に区別を明晰 clear に）に理解せしめるであろう。

そこで筆者は拙著『華厳菩薩道の基礎的研究』（昭63、平楽寺書店）において少しく、拙著『法華菩薩道の基礎的研究』（平16、平楽寺書店）において多少、それを試みた。

その結果として、思想命題の比較・対照には図表化が適応するが、概念作用の分析・総合には図式化が適合する、と知ることができた。

よって、筆者は本論において、拙著『法華菩薩道の基礎的研究』

において明証しえたところの、妙法の概念作用の構造構能分析の結果について、再度、多く図解（＝図式的解明）を試みるものである。

先ず拙著『法華菩薩道の基礎的研究』の中、「第二篇　法華経の Saddharma の研究、第一章　比較経典学より見たる Saddharma の三義、二　法華経における Saddharma、三　法華論における Saddharma」の所論にて明証された「Saddharma の概念を構成する諸属性間の関係」を図表化ないし図式化して示すと、左の如くになる。

〔第一図〕Saddharma の三義の概念（concept）

Saddharma の三義 ／ 品名	① 教　法 pravacana-dharma	② 証　法 prāpti-dharma	③（修）行法 pratipatti-dharma
	正法（saddharma）＝広大にして最勝なる正法（saddharma vipula praṇīta）の三義が明確に表示されている用例		
序品第一 七九偈 八〇偈 （第一例）	dharma-netrī（法眼） （妙）法華 （正）経典	(1) dharma-svabhāva（法の自性） （妙）諸法実相義 （正）自然之誼	(3) śāsana（教） （妙）欠 （正）諸経法教
方便品第二 一〇二偈 （第二例）	dharma-netrī（法眼） （妙）法門 （正）法門、所講説、正教	(2) prakṛtiś ca dharmāṇāṃ（常に安住するもの（sthikā hi eṣā sada） sadā prabhāsvarā（諸法の本性として常に明浄なること） （妙）法常無性（仏種従縁起） （正）諸法本浄（常行自然）	(1) eka-yāna（一乗） （妙）一乗 （正）教一乗之誼

	仏の説ける（prakāśita）もの	仏の顕示せる（ācakṣita）もの	諸弟子の勤行する（abhi-√yuj）べきもの
	仏の知る（√vid）ところ		仏の顕説する（pra-√kāś）もの

授記品第六 二五偈 二七偈 二九偈 （第三例）	(1) girā ananyathā（無異語） （妙）（我所説）真実無異 （正）吾教其仏音声当美柔軟	仏の説く（ud-ā-√hṛ）もの	(3) jñāna（智） （妙）仏智慧、等正覚	仏の得たる（pari-√pī）もの	buddha-śāsana（仏の教） （正）仏法教	菩薩の荘厳せしめるべき（upa-√śubh-ayiṣya-）（＝常行精進するべき）もの
授記品第六 三五偈 三九偈 （第四例）	(2) buddha-netrī（仏眼） （妙）仏道 （正）経法		agra-bodhi（無上の菩提） （妙）成仏？ （正）大尊道		sugatasya śāsana （妙）仏智慧 （正）仏教	
化城喩品第七 八三偈 八四偈 八五偈 （第五例）	(3) sūtra（経） （妙）経 （正）経典	仏の説ける（√bhāṣ）もの	(4) bauddha ... jñāna anāsrava śiva（寂静にして無漏なる仏智） （妙）仏無上慧 （正）清浄無漏	仏が衆生に宣説して聴聞せしめる（saṃ-√śru-ayi〜）	sugatasya śāsana（善逝の教） （妙）大乗経 （正）安住教	そこにおいて、とめる（adhik-āra kurvant）もの
従地涌出品第十五 二五偈 （第六例）	(4) dharma（法） （妙）法	仏の所説（deśitā）	bodhi（菩提） （妙）仏法	仏の称揚し安住する（sthāpita）ところ	śāsana（教） （妙）（受持し行ぜられるべきものとして）経、（修習されるべきものとして）仏道 （正）（顕説されるべきものとして）仏教、（建立されるべきものとして）仏行	求め（√ruc）受持者（dhāraka）によって保たれるべきもの
随喜功徳品第十八 一四偈 一七偈 （第七例）	(3) sūtra（経） （正）経	聴聞（śravaṇa）されるべきもの	(5) prasana-cittasya phala（浄明なる心の果）＝phala śubha（清浄なる果） （正）仏道	聴聞されるべきもの	(2) śukla karma（白浄なる業） （妙）修行 （正）清浄教誨清浄法	修される（kṛta）（べき）もの
	(妙）法華経 （正）経		（妙）福因縁、義趣 （正）法果			

	三語が共に正法ないし法華経を別称するとは断定しがたいが、その三義に相当するものが次第して表示されている用例			
化城喩品第七 一三偈 一四偈 （第八例）	(5) jñāna śabda（勝者の音声） （妙）仏名 （正）諸仏音声		(6) śaraṇa（帰処） （妙）帰命無上尊？ （正）救護	(3) śiva pada uttam'anās=rava（最上にして吉祥なる無漏の道） （妙）最上安穏無漏道 （正）其道最上無有衆漏
化城喩品第七 九一偈 （第九例）	(4) dharma（法） （妙）法華経 （正）法	①(4)を説（√b=hāṣ）いて②に導く（√nī）	agra-bodhi（無上の菩提） （妙）仏道 （正）仏尊道	(4) sthāna（住処） （妙）欠 （正）（随其）本性
常不軽品第二十 五偈 六偈 七偈 八偈 （第一〇例）	(3) sūtra（経） （妙）経 （正）経典		bodhi（菩提） （妙）仏道 （正）道慧	(3)によってなされる教化（par=ipācita）の目標とするところ	vināyakasya śāsana（導師の教） （妙）実相義 （正）経法自然之教諸懐道意	(3)がそのために顕説される（prakāśita）もの
序品第一 九七偈 九八偈 九九偈 （特例一）	①を説くことが②を示すことであり③を説くことであると説いて①＝②＝③を示す特例			
	(6) paryāya agra（無上の門）	(6)を説く（√b=hāṣ）ことが(7)を説く（√bh=āṣ）ことであり(5)を雨らすことでもある	(7) dharma-svabhāva-mu=drā（法の自性の印＝法そのもののはたらき） （妙）実相義 （正）経法自然之教諸懐道意		(5) dharma ananta-varṣa（無辺の法雨） （妙）法雨 （正）法雨柔軟法教	「この③(4)を恐怖することなかれ」とある	菩提を求めて発趣するものを満足させるもの

方便品第二 一〇一偈 （特例二）	(7) dharma-mukha（法門） 対応シナ訳語欠	(7)を説くことが(1)を示すことであり(6)を説くことである	(6) tathāgatatva（如来性） （妙）仏種（従縁起） （正）欠	(1) eka-yāna（一乗）
薬草喩品第五 六一偈 （特例三）	(8) saddharma（正法） （妙）欠 （正）寂正法	(8)を説くことが②(8)を(7)を説示することである	(8) anuttara buddha-bodhi（無上の仏の菩提） （妙）欠 （正）無上仏覚智	(7) agra-yānika（無上なる乗） （妙）欠 （正）最勝乗
法華論 釈方便品 歎妙法功徳分 （結　論）	妙法（＝諸仏智慧）の功徳（＝甚深） ①教法とは、仏の音声たる無異語によって無上の門として説かれた経としての法である		②証法とは、如来性たる寂静無漏の仏智によって悟られた法の自性の印たる諸法本浄、すなわち無上なる仏の菩提たる浄明なる心果としての法である	③（修）行法とは、仏になるために修するべき白浄なる業、すなわち無漏の道である一乗としての法である
歎法師功徳分	阿含甚深＝無量なる智慧の門＝因縁の法を説くこと（＝教法・行法？）		証甚深＝阿耨菩提（＝証法）	
	妙法＝諸法実相＝五何↔証法・説法（↓修行法） 説法＝唯如来のみ能く説く一切の法＝衆生の意に随って為に修行の法を説く（＝教法）		証法＝唯仏如来のみ知る一切の法＝唯如来のみ自ら証得する覚体（＝証法）	修行法＝衆生の意に随って為に修行の法を説く（＝修行法）

結　論

saddharma は①であると同時に②であり、同時にまた③であるようなもの、すなわち①②③を同時に所具として総持するところの仏法（buddha-dharma）を、真（sat）の仏法（dharma）として価値評価的に総称するものであり、①②③を具体的に意味する総名である。

saddharma =
- ① dharma-netrī = jina-śabda = agra-paryāya = sūtra
- ② bodhi = tathāgatatva = buddha-jñāna = dharma-svabhāva-mudrā
- ③ śāsana = śukla-karma = agra-yānika = eka-yāna

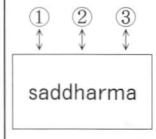
（比較対照）十地経における場合

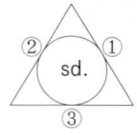
すなわち saddharma は華厳十地経では①②③を意味し指称しながらも、①②③を一般化して総括する buddha-dharma の概念を、その真実性に着目して価値評価的に総称するものであり、①②③を抽象的に意味する総名である。

saddharma = buddha-dharma =
- ① tathāgata-bhāṣita-dharma-netrī = tathāgata-bhūmi-jñāna-nirdeśa (=bhāṣita) = pravacana-dharma (=sūtra)
- ② buddha-bodhi (=bodhi) = tathāgata-bhūmi-jñāna = prāpti-dharma (=bodhi)
- ③ samyaksaṃbuddha-śāsana = sarva-bodhisatva-caryā (=pāramitā or bodhisatva-bhūmi) = pratipatti or sādhana-dharma (=saṃbhāra)

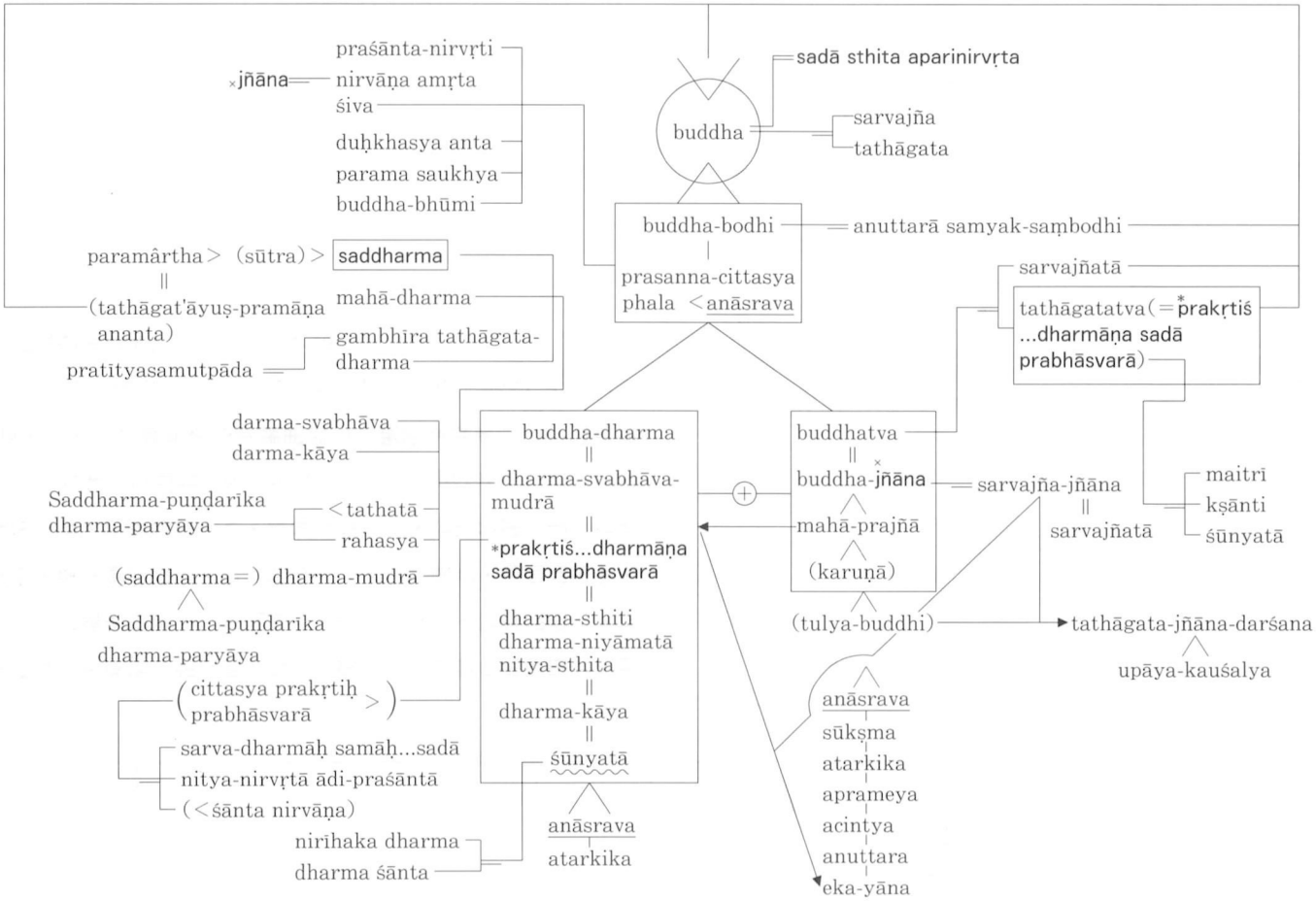
tathāgatānām...śāsanâdhiṣṭhāna-saddharma-sthiti-sūkṣma-praveśa-jñāna

「第四篇　法華経の諸問題の研究、第二章　仏性の語義概念と関係諸語」の所論を再考し、序品第一・方便品第二・譬喩品第三・信解品第四・薬草喩品第五・授記品第八・人記品第九・法師品第十・涌出品第十五・随喜品第十八・寿量品第十六・分別品第十七・普賢品第二十八における仏性（buddhatva ＝ tathāgatatva）をめぐる**Saddharma とその属性を示す諸用語との関係を体系化して図式化**し、また Saddharma の証（得の）法（prāpti-dharma）としての構造を図式化すると、左の如くになる。

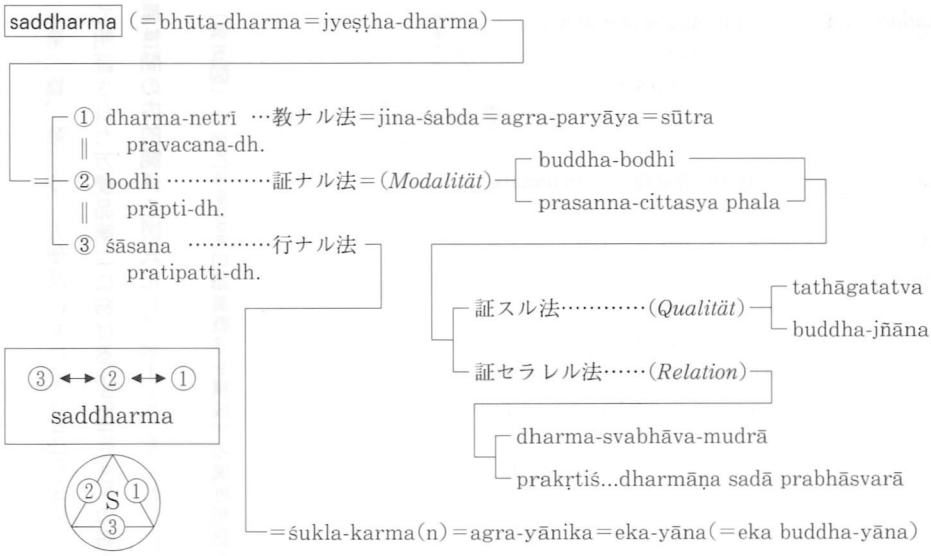




〔第二図〕Saddharma とその属性を示す諸用語との必然関係



〔第三図〕Saddharma の三義の内的関係



「第四篇、第三章　仏性の実用」の所論にて明証された如来寿量品第十六などにおける Saddharma の同義異語による一特徴を図式をもって明示すると、左の如くである。

〔第四図〕Saddharma の同義異語

信解品第４第59偈

Saddharma ＝mahātma-dharma

譬喩品第３第３偈

Saddharma ＝
- sūtra＝①pravacana-dharma
- sarvajña-bhāva＝tathāgatasya dhātu＝②prāpti-dh.

法師品第10第26・31偶

Saddharma ＝
- （tathāgata-）ātmabhāva
- dharma-svabhāva（-mudrā）

＝prabhāsvara＝②prāpti-dharma

宝塔品第11第35偶

Saddharma ＝
- Saddharma-puṇḍarīka-sūtra ＝dharma-paryāya＝sūtra-pustaka＝①
- buddha-jñāna＝jina-vigraha＝②

寿量品第16第９・16偶

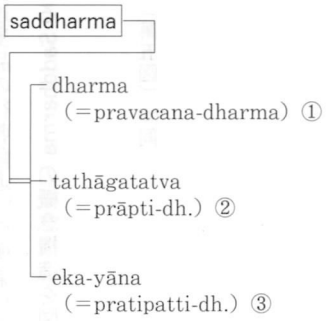
Saddharma ＝
- dharma＝①
- （tathāgatasya）ātmabhāva（...prabhāsvara）＝jñāna-bala＝②

「第二篇、第二章　方便品におけるSaddharmaの意義」の所論にて明証された方便品第二におけるSaddharmaの概念を構成する諸属性間の内的関係を図式化して示すと、左の如くになる。

〔第五図〕(1) Saddharmaの語義概念を構成する属性用語の内的関係

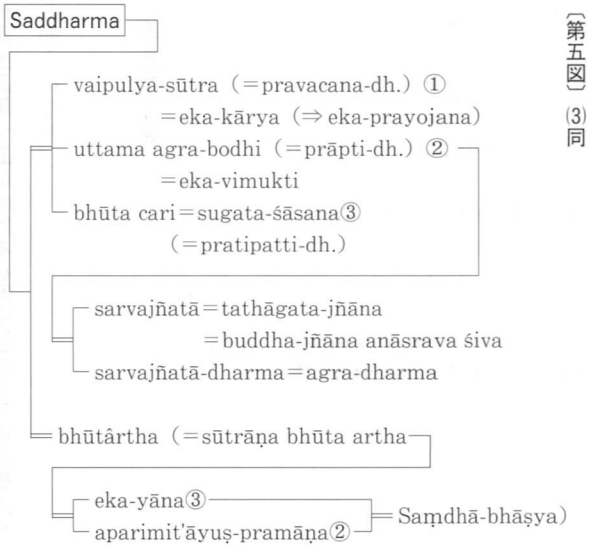
「第四篇　法華経の諸問題の研究、第四章　方便品における仏種従縁起の原意語義と漢訳概念」の所論にて明証された方便品の第一〇一偈におけるSaddharmaの概念を構成する諸属性間の内的関係を図式化すると、左の如くになる。

〔第五図〕(2)同



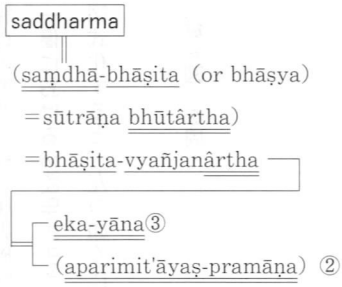
「第三篇　法華経の菩薩行の研究、第一章　久成釈尊との関係より見たる菩薩行　二　化城喩品の行菩薩道」の所論にて明証された化城喩品第七におけるSaddharmaの概念を構成する諸属性間の内的関係を図式化して示すと、左の如くになる。

〔第五図〕(3)同



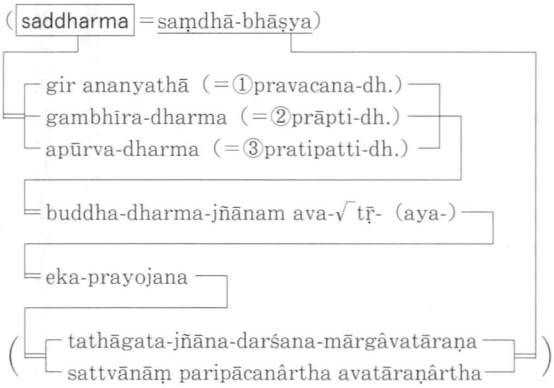
「第三篇、第一章　久成釈尊との関係より見たる菩薩行、三　提婆達多品の行菩薩道」の所論にて明証された提婆達多品第十二におけるSaddharmaの概念構造を図式化すると、左の如くである。

〔第五図〕(4)同



「第三篇、第一章、四　従地涌出品の行菩薩道」の所論を再考し、従地涌出品第十五におけるSaddharmaの概念構造を図式化すると、左の如くになる。

〔第五図〕(5)同



「第二篇　法華経のSaddharmaの研究、第四章Saṃdhā-bhāṣ=yaの語義概念と関係構造」の所論において明証されたSaddharmaと同義語のSaṃdhā-bhāṣyaないし他の類義語・反意語との構文論的・意味論的・語用論的な諸関係を図式化すると、以下の如くである。これによってSaddharmaの一乗と久成との二意が明証されよう。

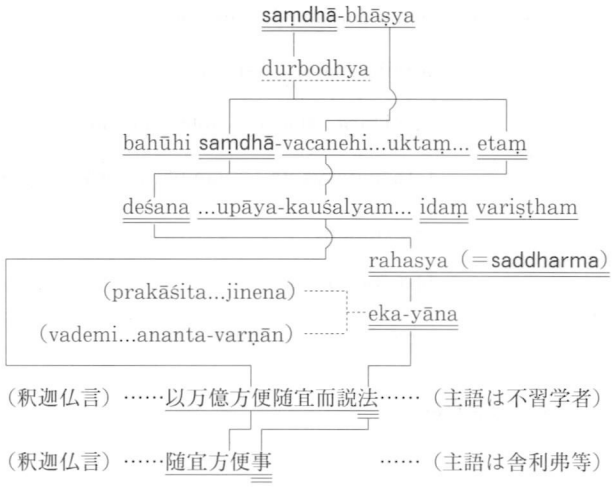
〔第六図〕イ）　Saddharma＝Saṃdhā-bhāṣyaの基本解釈構造

〔第六図(1)〕 ロ） 方便品長行 *WT.*, p.28, *ll.*10－11.

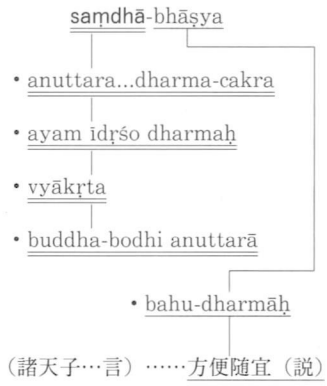
〔第六図(2)〕ハ）　方便品長行 *WT.*, p.32, *l.*8－p.33, *l.*1.

〔第六図(3)・(4)〕ニ）　方便品長行 *WT.*, p.36, *ll.*22－23. 重頌23偈 *WT.*, p.33, *ll.*5－6.

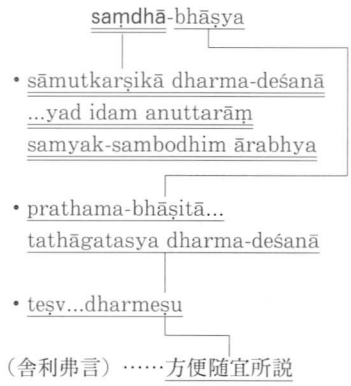
〔第六図(5)・(6)〕ホ）　方便品重頌144・145偈　*WT.*, p.58, *ll.*5－12.



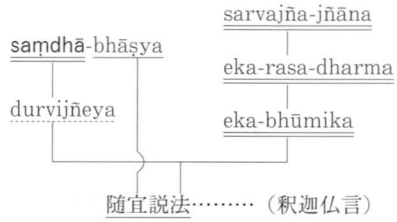
〔第六図(8)〕ト）　譬喩品重頌36・37偈
WT., p.68., *ll.*3－10.



〔第六図(7)〕へ）　譬喩品長行領解段
WT., p.59, *ll.*4－21.



〔第六図(9)〕チ）　薬草喩品長行
WT., p.116., *ll.*23－29.



〔第六図(10)〕リ）　五百弟子受記品長行
WT., p.176., *ll.*1－5.

五百弟子受記品第八における Saṃdhā-bhāṣita の構造機能

〔第六図(11)〕ヌ）　法師品長行
WT., p.202, *ll.*23－27.

法師品第十における Saṃdhā-bhāṣita の構造機能

〔第六図(12)〕ル）　勧持品偈頌16偈
WT., p.233, *ll.*13－18.

勧持品第十三における Saṃdhā-bhāṣya の構造機能

〔第六図(13)〕ヲ）　安楽行品長行
WT., p.245, *l.*28－p.246, *l.*3.

安楽行品第十四における Saṃdhā-bhāṣita の構造機能

「第二篇、第三章　如来寿量品におけるSaddharmaの意義」の所論、「第二篇、第四章 Saṃdhā-bhāṣya の語義概念と関係構造」の所論にて明記された**如来寿量品第十六におけるSaddharmaの概念を構成する諸属性間の関係**を図式化して示すと、左の如くになる。

なお分別功徳品第十七の三六偈のSb.は三二偈のmama āyur acintya（わが不可思議なる寿命）を承け、次下の長行のtathāgat'āyuṣ-pramāṇa-mirdeśa dharma-paryāya（如来寿量の説示の法門）がこれに応ずるから、前品の如来寿量品を指称すると同時に、同品において説示される如来寿量（tathāgat'āyuṣ-pramāṇa）を、ひとには如来の不可思議なる寿命（āyur acintya）を指摘する。

この図式は**寿量品・分別品におけるSaddharma = Saṃdhā-bhāṣyaの構造機能分析**とでも云えよう。

〔第七図(1)〕ワ）　如来寿量品 *WT.*, p.265, *l.*1－p.278.*l.*21. 分別功徳品36偈 *WT.*, *ll.*9－10.

Saddharma（＝bhūta-dh.＝jyeṣṭha-dh.）

・色（varṇa）なる修行法（pratipatti-dh.）＝（自在神力 vṛṣabhitā）③
・香（gandha）なる証法（prāpti-dh.）＝（秘要之蔵 rahasya）②
・味（rasa）なる教法（pravacana-dh.）＝（甚深之事 gambhīra-sthāna）①

を所具（saṃpanna）とする大良薬（mahā-bhaiṣajya）

Saṃdhā-bhāṣya

saṃdhā＝bhūtârtha　　bhāṣya＝upāya-kauśalya

如来寿量（tathāgat'āyuṣ-pramāṇa）

不可思議なる寿命（āyur acintya）

bhagavat śākya-muni tathāgata

（不生不滅の）本地仏　　生滅の垂迹仏

久遠実成・（寿命今猶未尽）　　伽耶近成・入於涅槃

実成仏已来久遠（cirâbhisaṃbuddha）・今非実滅度(aparinirvāyamāṇa)　　得仏末久（acirâbhisaṃbuddha）・当入涅槃（parinirvāṇa）

寿命は不可量（aprameya）すなわち寿命無量（aparimit'āyuṣ-pramāṇa）　　寿命は可量（prameya）

常住不滅（sadā sthita aparinirvṛta）　　（我本行菩薩道所成）寿命今猶未尽（adyâpi...āyuṣ-pramāṇam api aparipūrṇam）

如来の所作（kriyā）＝eka-kārya

而実不滅度常住此説法（na câpi nirvāmy ahu tasmi kāle ihâiva co dharmu parikāśayāmi）

教化衆生令入仏道（paripācanârtha avatāraṇârtha）

（・秘密神通之力（adhiṣṭhāna-bala）
・仏智力（buddha-jñāna-bala））

毎自作是年以何令衆生得入無上道速成就仏身（kathaṃ nv bodhāv upānamayeyaṃ katha buddha-dharmāṇa bhaveyu lābhinaḥ）

為度衆生故方便現涅槃（＝当入涅槃などと方便説法して涅槃地を示現する）（nirvāṇa-bhūmiṃ c'upadarśayāmi vinayârtha sattvāna vadāmy upāyam）

善巧方便たる説法を成就するための変現（upāya-kauśalya-dharma-deśanā' bhinirhāra-nirmitāni）

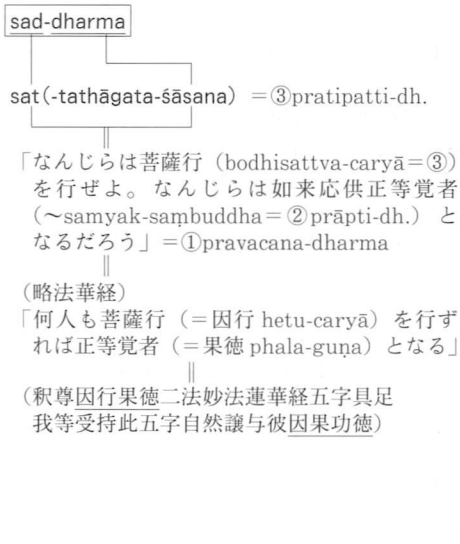
以方便力故現有滅不滅（upāya-kauśalya mamêti...punaḥ-puno bhomy ahu jīva-loke）

随応所可度為説種種法（vadāmi sattvāna tathā-tathā'ham）

「第三篇、第二章上慢の四衆との関係より見たる菩薩行、（八）常不軽菩薩品第二十における常不軽菩薩と増上慢ある四衆」の所論にて明証された**常不軽菩薩品第二十における Saddharma の概念とその内容構造の関係**を図式化して示すと、左の如くになる。

これについては、拙著『摂折論の新研究（上）』（華林山文庫、平成十四年）所収「不軽品の摂折論」に詳細に明証したところである。

〔第八図〕常不軽菩薩品における略法華経（における）Saddharma の構造機能分析



「第二篇、第六章　如来神力品におけるSaddharmaの意義、四句要法」の所論にて明証された如来神力品第二十一におけるSad=dharma概念を構成する諸属性間の関係構造を図式化して指摘すると、左の如くになる。

〔第九図〕如来神力品における四句要法の構造機能

法華経サンスクリット原典における正法（Saddharma）の三義

- saddharma ＝
  - ① dharma-netrī ＝ jina-śabda ＝ agra-paryāya ＝ sūtra
  - ② bodhi ＝ tathāgatatva ＝ buddha-jñāna ＝ dharma-svabhāva-mudrā
  - ③ śāsana ＝ śukla-karma ＝ agra-yānika ＝ eka-yāna

法華経如来神力品の結要付嘱の四句要法は左の如く正法の三義に対応照合する。

- Saddharma（＝bhūta-dharma）puṇḍarīka nāma dharma-paryāya（＝sūtra）――――（guṇa）
  - ＝ buddha-dharma（＝bhūta-dharma）……saddharma の guṇa の総体的明示
  - guṇa の明別体的示 ＝
    - ③ buddha-vṛṣabhitā（自在神力）＝karman, parākrama
      - ‖ tathāgata-bala
    - ② buddha-rahasya（秘要之蔵）
      - ‖ tathāgatasya … adhyātmika-dharma-rahasya ―bodhi
      - rahasya-jñāna
    - ① buddha-gambhīra-sthāna（甚深之事）＝sūtra viśiṣṭa, sūtrāṇa bhūta artha
      - ‖ anākhyāta … sthāna

「第五篇　結論にかえて、第一章　法華経神力嘱累付嘱考」の所論にて明証された法華経の諸品における付嘱（parīndanā）をなしうる仏の位相、付嘱されうる法の位相、付嘱されうる菩薩の位相を、その仏・法・僧の三宝の必然的な対応関係として、機能分析して図式化したところである。それを再治して明示すると、左の如くなる。

〔第十図〕法華経における仏法僧三宝の必然的関係

品名 ＼ 項目	付嘱をなしうる仏（の位相＝仏体）＝仏宝	付嘱されうる法（の位相＝法体）＝法宝	付嘱され（受嘱をなし）うる菩薩（の位相）＝僧宝
方便品（upāya-kauśalya-p.）第二を中心とする迹門八品ないし法師品（dharma-bhāṇaka-p.）第十	前霊山会の序品第一より法師品第十まで ○伽耶近成（＝始成正覚 aci-rābhisaṃbuddha）の釈迦牟尼（Śākya-muni）仏 ○智度論に云う （共般若を説く仏である）始成正覚の随世間身 lokânuvartaka-kāya＝化身＝神通変化身＝色身 rūpa-k.＝父母生身 mātā-pitṛ-ja-k. ○法華論に云う 応身 nirmāṇa-k.（△応化仏菩提＝見る応き所に随って而も為に示現する）	○妙法蓮華と名づける法門（Saddharma-puṇḍarīka nāma dharma-paryāya） ＝ ○諸仏秘要之蔵（ādhyātmika-dharma-rahasya） ⇒ ○随宜所説（三乗）意趣（一乗）を開示せる最勝なるもの（parama-saṃdhā-bhāṣita-vivaraṇa 開方便門示真実相） ⇒ ○随宜所説意趣（saṃdhā-bhāṣya） ⇒ ○saṃdhā（真実相） ＝ ◎一乗（eka-yāna） ⇓ ◎妙法（saddharma） dharma-netri＝sūtra ＝ bodhi＝tathāgatatva ＝ śāsana＝eka-yāna	序品第一 ○忍辱力（kṣānti-bala）ある仏子（jinasya putra）＝無上菩提に発趣したもの（prasthita agra-bodhim） 方便品第二 ○過去に見仏（pūrva-buddha-darśāvin）して般若（prajñāvin）を有する生類（prāṇin） ○浄明なる（prasanna）・堅実なる信に安住せる（śraddhā-sāre prastitā）世尊の衆会（parśad） ○乗は一つのみと信じ（śrad-√dhā）認め解して如来の滅後に諸経の受持者（dhāraka）・説示者（deśaka）となる菩薩（⇒地涌の菩薩 pṛthivī-vivara-samudgama bodhisattva の行相） 譬喩品（aupamya-p.）第三 ・仏語を信じて（śraddhāya）（ッの）経に随順する（yānti）、堅実なる信解をもつ（adhimukti-sāra）世尊の声聞（＝菩薩） 化城喩品（pūrva-yoga-p.）第七 ・「無上正等覚を志願する（arthin）信（śraddhā）（すなわち）如来の知見を志願する（t.-jñāna-darśanena arthin）深心（adhyāśaya）」を前提条件とし、「妙法蓮華の法門（すなわち教 pravacana・行 pratipatti・証 prāpti を具する妙法）に対する聴聞

		（＝dharmaṃ √śru）・信解（adhi-√muc）・受持（ud-√grah, √dhṛ）、（すなわち）如来に対する南無（namas-√kṛ）」を根本精神とし、 「仏智を受持するもの（buddha-jñāna-pratigrāhaka 受持仏智）」として「法門を何度も広く顕説する（saṃ-pra-√kāś）こと」（＝法師 dharma-bhāṇaka の所行）を実践態度とする、 すなわち「広大・殊勝なる行（caryā vipulā viśiṣṭā 行（仏道））」を有する菩薩（⇒上行 viśiṣṭa-cāritra）
		法師品第十 ・(1)（旧住の）薬王（Bhaiṣajya-rāja）菩薩（をはじめとする八万の菩薩） ☆薬王なる名称は大医王の仏陀に照応し寿量品に示される大良薬（mahā-bhaiṣajya）を予想せしめる 過去に妙法蓮華の法門に近づいて観行を勤修（yogâbhiyukta）して現一切色身三昧（sarva-rūpa-saṃdarśana samādhi）を得て最上の法供養（dharma-pūjā）をなし教（śāsana）の嘱累を受ける ・「一切智性（sarvajñatva 一切種智慧）を求め経＝理趣（naya）を受持（√dhṛ）してこの経を説く」ことを根本精神とし、 聴聞・随喜（anu-√mud-aya-）・思惟（√cint）を前提条件とし、 法師の行分である受持（√dhṛ）と説示＝顕説（pra-√kāś-aya）を根本属性とする法師の所行（辞 nirukti・弁才 pratibhāna の無礙智 pratisaṃvid など）（⇒地涌の菩薩の行相）を実践態度とする

見宝塔品（stūpa-saṃdarśana-p.）第十一	虚空会十一品中の見宝塔品第十一より安楽行品第十四まで ○伽耶近成（＝始成正覚 aci-râbhisaṃbuddha）の釈迦牟尼仏 ○智度論に云う 説法華の釈迦牟尼（śā-kya-muni）仏（＝報身＝受用身 saṃbhoga-k.） 久滅度の多宝（prabhū-ta-ratna）如来（＝法身 dharma-k.） 法性生身（dharma-dh-ātu-ja-k.） 十方来の分身仏（＝応身 nirmāṇa-k.） 随世間身 lokânuvartaka-k. ＝父母生身 mātā-pitṛ-ja-k.	○妙法蓮華経（-sūtra） ⇒ ○妙法（saddharma） ⇒ ○仏身（jina-vigraha） ＝ ○仏智（buddha-jñāna） ＝ ◎如来寿量（tathāgat'āyuṣ-pramāṇa）	・大楽説（mahā-pratibhāna）菩薩 六楽説（pratibhāna）は法師の行中の果たる意根清浄（mana-indriya pariśuddha or viśuddha）の功徳の四無礙智の弁才無礙智、三陀羅尼の第三の弁才陀羅尼（pratibhāna-dhāraṇī）を含意し、地涌の菩薩の弁才無礙智を予想せしめる（⇩地涌の菩薩の行相） ・娑婆世界（sahā loka-dhātu）において妙法蓮華の法門を顕説するために堪忍する（utsahate）比丘（⇩地涌の菩薩の行相） ・六八難九易を堪忍する善男子 kula-putra（⇩地涌の菩薩の行相）
提婆達多品 第十二		○妙法蓮華経 ⇒ ○最勝の法（jyeṣṭha-dharma） ＝ ○妙法（saddharma） ⇒ ◎如来の所説の文（による）義（bhāṣita-vyañjanârtha ＝ sūtrāṇa bhūta artha ＝ saṃdhā 意趣） ＝ ○（saṃdhā-bhāṣita）	・「不退転の菩提心（bodhi-cittâvinivartin）をもつ」ことを前提条件とし「妙法蓮華経の（この）品を聞いて清浄心（viśuddha-citta）をもって信解（adhi-√muc）し所説の文・義を受持すること（-udgrahaṇa）を根本精神とし「受持して陀羅尼を受得し衆生を救護する（sattva-niṣtāraṇa）ために法を広説する」ことを実践態度とする菩薩（⇩地涌の菩薩の行相）
勧持品（utsāha-p.）第十三	令法久住（→三身常住） ○法華論（-upadeśa）に云う 三身三仏 応身＝化身（＝応化仏菩提） 報身（＝報仏菩提） 法身（＝法仏菩提）	○所嘱（nikṣepa） ＝ ○妙法蓮華経 ⇒ ○妙法（saddharma） ＝ ○随宜所説意趣（saṃdhā-bhāṣya 方便随宜	・菩薩＝所嘱を護持するもの（nikṣepa-dhāraka） (1)（旧住の）薬王菩薩・大楽説菩薩――如来の滅後にこの法門を（上慢なる adhimānika ◁ 過慢）諸衆生に説示（√diś-aya-）し顕説（saṃ-pra-√kāś-aya-）したい――忍力（kṣānti-bala）を示してこの経を読誦し受持し身命（kāya-jīvita）を捨てて顕説したい、と誓言する（vācaṃ √bhāṣ）（此土弘経⇩地涌の菩薩の行相）

安楽行品（sukha=a-vihāra-p.） 第十四	○智度論に云う └随世間身？ └法性生身＝真身＝「法性（dharmatā＝法身 dharma-kāya）より生ぜる（maya＝よりなる）身（＝報身 sa=mbhoga-kāya ＝ buddha-jñāna）＝仏寿無量」 始成正覚と特称（particular）される法性生身	所説法） ⇓ ○一乘（eka-yāna） ⇓ ○菩提（bodhi） └buddha-jñāna └dharma-svabhāva-mudrā	(2)（他方来の）八十万億那由他の菩薩比丘——陀羅尼を得て不退転法輪を転ずる（avaivartika-dharma-cakra-pravartaka）⇒菩提を希求し身命を惜しむことなく信解（adhimukti）ありて随宜所説意趣を知り所嘱を護持するものとして忍辱（kṣānti）の腹帯（kakṣyā）を着け真実の語（satyā vāc）を宣説して最上の経（sūtra uttama）を顕説したい（十方弘通）と誓言する（⇓常不軽菩薩の行相⇓地涌の菩薩の行相）
従地涌出品（bodhisattva-pṛthivi-vivara-samudg=ama-p.） 第十五	虚空会中の涌出品第十四より嘱累品第二十二まで	○妙法蓮華なる法門 ⇓ ○妙法（saddharma） └（仏所説の）法（dharma） └（仏の安住する）菩提（bodhi） └（受持・修習されるべき教 śāsana） └○甚深なる法（gambhīra-dharma）＝如来法（tathāgata-dharma）	○（妙法蓮華なる）法門（dharma-paryāya） ⇓ ○随宜所説意趣（saṃdhā-bhāṣita 方便随宜説法） ⇓ ○一仏乘（eka buddha-yāna） ⇓ ○仏知見（t.-jñāna-darśana） ○妙法蓮華なる法門 ⇓ ○妙法（saddharma） └（仏所説の）法（dharma） └（仏の安住する）菩提（bodhi） └（受持・修習されるべき教 śāsana） └○甚深なる法（gambhīra-dharma）＝如来法（tathāgata-dharma）	・大なる悪慧の衆生（mahā-duṣprajñā-jātiya...sattva）を成熟せしめよう（paripācayiṣyāmi）と発心しこの法門を受持せん（＝随宜所説意趣を聞・信・信解してこの法門に入ろう）と欲して愍衆故行道の諸菩薩をわが師（śāstṛ）なりと尊師（guru）として尊重（gauravaṃ √jan）し諸仏を憶念（√smṛ）して父の想（pitṛ-saṃjñā）なし上慢（△過慢）の念い（adhi=māna-saṃjñā）を捨てて質直（ārjava）柔和（mā=rdava）にして忍耐（kṣānta）づよくこの法を顕説する（⇓常不軽の菩薩の行相⇓地涌の菩薩の行相） (3)（他方来）の八恒沙に等しい菩薩——如来の滅後にこの法門を娑婆世界（sahā loka-dhātu）において顕説し読誦し供養したい云々と請う（△受持を欠く）——止みなん善男子よ（alaṃ kula-putrāḥ）—— (4)上行（viśiṣṭa-cāritra）を上首とする地涌の菩薩 └この法門を受持（√dhṛ-aya-＝～釈迦・多宝に直面して南無をなす manas-√kṛ）し読誦し顕説する—— └（通時的意味において）釈尊の因行（のみならず果徳）を（も）滅後に代行再現する——

如来寿量品（tath=āgat'āyuṣ-pram=āṇa-p.） 第十六	○久遠実成（cirâbhisaṃbu=ddha）の釈迦牟尼（śākya-muni）仏 ○智度論に云う （従地涌出の菩薩を内眷属・大眷属と為す）法性生身 ○久遠実成と特称判断される（寿命無量・常住不滅 sadā sthita aparinirvṛta・常住此説法 ihâiva … dharmu prakāśayāmi・我浄土不毀 me kṣetram idaṃ sadā sthitaṃ を加持する秘密神通之力 adhiṣṭhāna-bala を任持 ādhāna する）法性生身 ○智度論の二身説に約すると	⇒ ○未曽有法（apūrva-dharma） ⇒ ○仏の法智（buddha-dharma-jñāna）に趣入せしめるもの ＝ ○一乗（eka-yāna） ○（随宜所説意趣） ⇒ ○如来寿量（tathāgat'āyuṣ-pramāṇa） ＝ ○寿命無量（aparimit'āyuṣ-pramāṇa） ＝ ○常住不滅（sadā sthita aparinirvṛta） ＝ ○常住此説法（ihâiva co dharmu prakāśa=yāmi） ＝ ○妙法（saddharma） ＝ 大良薬（mahā-bhaiṣaiya） 所具（saṃpanna） 色（varṇa）＝（修）行法（pratipatti-dha=rma） 香（gandha）＝証（得）法（prāpti-dh.） 味（rasa）＝教法（pravacana-dh.）	（浅層的構造において）釈尊と因果・能化所化の必然の関係（不染世間法如蓮華在水 anūpaliptāḥ padumaṃ va vāriṇā）にあり——（深層的構造において）釈尊と能（化）所（化）同一の関係（身皆金色 suvarṇa-varṇa kāya 三十二相無量光明）にあり—— ——（共時的意味において）互具の関係にあり—— ○如来の任持（ādhāna）する「加持力（adhiṣṭhāna-bala による示現作用）」に対応する「等持（samādhi を住処とする）力（による観照作用）（＝浄業 śubha karman＝śukla karma＝eka-yāna により柔和質直 mṛdu mārdava となれる心 citta）」を任持する菩薩は 仏身（ātmabhāva）を現見して寿命無量（aparimit'=āyuṣ-pramāṇa）ないし我浄土不毀 me kṣetrm idaṃ sadā sthitaṃ）などを信解し信受する ○（法師⇒）「妙法蓮華の法門を説く」という如来の所作を行ずる（tathāgata-kṛtya-kara）如来使（tathā=gata-dūta）としての菩薩（？）（⇓常不軽 sadā=paribhūta 菩薩⇒地涌の菩薩）

分別功徳品（puṇya-paryāya-p.）
第十七

始成の随世間身
始成の法性生身

久成の法性生身

○法華論の三身説に約すると

近成＝応身
久成＝報身
常住＝法身

三身即一報身正意

近成＝応身（—法身—報身）
＝始成
久成＝（応身—）
報身（—法身）
＝始成

始成＝（応身—）
報身（—法身）
＝久成

⇔

○無始＝（法報応）三身
（常住）＝本覚無作
＝三身常住

○始成なる近成
⇔
○始成なる久成

随喜功徳品 anumodanā-puṇya-nirdeśa-p.
第十八

○随宜所説意趣（saṃdhā-bhāṣya 随宜解仏語）
⇒
○如来寿量（t. āyuṣ-pramāṇa）
＝
○不可思議の寿命（āyur acintya）

○如来の寿量の説示の法門（を聴聞して）

無生法忍（anutpattika-dharma-kṣānti）
（聞持）陀羅尼（dhāraṇī）
（楽説）無礙弁才（asaṅga-pratibhāna）
旋陀羅尼（parivartā dhāraṇī）
を得る

不退転法輪を転ずる（avaivartya-dharma-cakra-pravartaka）菩薩（⇒地涌の菩薩の行相）

○如来の寿量の説示の法門を聴聞して

一心に発起する信解によって信受する＝深心（adhyāśaya）を具足し所聞を受持（śrut'ādhāra）して随宜所説意趣（＝如来の寿命）を識別し疑わない（一念信解（eka-cittôtpādika…adhimukti））…深心をもって信解して如来の常説法と仏国土を現見する（深信観成 adhyāśayenâdhimucyate…drakṣyati）（＝四信）
随喜（abhy-anu-√mud）ないし勤修（abhiyukta）
六度する（＝五品）

如来の寿量（＝随宜所説意趣）の説示の法門を聴聞・受持（√dhṛ）する菩薩（⇒地涌の菩薩の行相）

○（聴聞 śravaṇa）随喜（anumodanā）して福徳（puṇya）を生ずる菩薩

○妙法蓮華経
⇒
○妙法（saddharma）

（聴聞するべき）経（sūtra）（＝教法）
浄明なる心の果（prasanna-cittasya phala）（＝証法）

⇔
（無始なる本覚無作）
＝
（三身常住＝五百塵点乃至所顕三身無始古仏）
＝
（○五百塵点の当初（そのかみ）より以来（このかた）此土有縁深厚・本有無作三身の教主釈尊）

法師功徳品 dharma-bhāṇakânuśaṃsā-p.
第十九

常不軽菩薩品 sadā'paribhūta-p.
第二十

└（修されるべき）浄業（śukla karma）（＝行法）
○妙法蓮華経
⇒
○最上の法（agra-dharma）＝妙法（saddharma）
⇒
○随宜所説意趣
⇒
○如来寿量＝常住不滅

○法華経を五種法師行をもって修行して六根清浄（意根清浄 mana-indriya pariśuddha の作意の功徳 manaskāra-guṇa →四無礙智）を得る法師菩薩（⇒地涌の菩薩の行相）
○「この経を衆会の中で怯じることなく顕説する imaṃ sūtra bhāṣeta parṣāsu ca viśāradya）」ことを根本精神とし、
「仏の所説の経を受持（√dhṛ）し如来の説ける如く（yathôktaṃ）如実（yathā-bhūtaṃ）に法を顕説する（pra-√kāś）」ことを根本属性とする法師の所行を実践態度とする
☆常精進（satata-samitâbhiyukta）菩薩の名義（常に等しく（＝不断に）勤修する（abhiyukta）」（⇒地涌の行相）

○（妙法蓮華なる）法門
＝
○（如来寿量の説示という）法門
＝
○如来寿量＝常住不滅
⇐
○妙法（saddharma）
経（sūtra）
菩提（bodhi）
教（śāsana）
＝
○「何人も菩薩行（bodhisattva-caryā＝行、法）を（因行として）行ずれば、（果徳と

○常不軽菩薩――増上慢の四衆に（常に）軽慢しない（nâham ... yuṣmākaṃ paribhavāmi）と告知すること（＝但行礼拝）をもって授記（vyākaraṇa＝一乗の下種）（するという釈尊の実用を代行）し、上慢（adhimānika）の四衆に瞋恚（krodha）を生ぜしめ、四衆の軽毀（ākrośa）を堪忍（√sah）し、妙法蓮華なる法門を聴聞・受持して、六根清浄を得ると共に、自らの命行（jivita-saṃskāra）を加持（adhi-√sthā）して法華経（＝一乗・久成）を顕説（＝如来の所作の代行）し、神通（ṛddhi）・弁才（pratibhāna）・般若（prajñā）の力勢（bala-sthāman）を見せ（上慢の四衆をして）勧発（＝下種）せしめる（samādāpita）（⇒地涌の菩薩行）

如来神力品 tath=āgatârddhi-p. 第二十一	して）正等覚者（＝証法）となる」（＝教＝行法） ⇐ （それ故に）何人をも軽慢しない（aparib=hūta＝但行礼拝＝行法）ということ（＝教法） ＝ ○真実（sat）なる（如来の）śāsana（教＝行法⇒逆化折伏 nigraha ?）」 ＝ sat + dharma（＝śāsana）＝saddharma	○常不軽の根本属性は、法師品の法師行の帰着する宝塔品・勧持品・安楽行品の菩薩行の収束するところでもあり、法師功徳品の五種法師行・六根清浄の帰結するところでもある（⇓地涌の菩薩の行相）
	○udāra dharma-paryāya （真浄大法） ⇒ ○随宜所説意趣（saṃdhā-bhāṣya） ⇒ ○anusaṃdhi（因縁・次第・所帰） ＝ ○諸経の真実義（sūtrāṇa bhūta artha） ＝ ○妙法（saddharma） ＝ ○総相（aṅga）としての guṇa ＝ ○buddha-dharma（所有之法 ＝仏法）⇑ 別相（upāṅga）としての guṇa	(4)上行を上首とする（viśiṣṭa-cāritra-pramukha）地涌の菩薩 ⓐ如来の滅後に一切の仏国（buddha-kṣetra⇒sahā loka-dhātu）においてこの勝妙なる法門（udāra dharma-paryāya）を受持（dhāraṇa）し読誦（vācana）し説示（deśana）し顕説（saṃprakāśana）し書写（likhana）する（⇑五種法師行→常不軽の菩薩行⇒地涌 pṛthivī-vivara-samudgama の菩薩行） ⓑ殊勝なる法華経の福利（anuśaṃsa）を聴聞し釈尊滅後に受持（√dhr）して 真実の法（bhūta-dharma）＝正法の功徳たる三義（四句要法）を秘要之蔵―秘密の智（＝仏智）を思念し 四無礙智（-pratisaṃvid）を成就して法・義・辞を知り

囑累品 anuparī=ndana-p.
第二十二

buddha-vṛṣabhitā（自在神力＝行法）
＝eka-yāna
buddha-rahasya（秘要之蔵＝証法）
＝bodhi＝tathāgat' āyuṣ-pramāṇa
buddha-gambhīra-sthāna（甚深之事＝教法）＝sūtrāṇa bhūtârtha
（四句要法）
saṃdhaya yaṃ bhāṣitu
＝anusaṃdhi sūtrāṇa
＝sūtrāṇa ... bhūtârtha

○無上正等覚（anuttarā samyak-saṃbodhi＝prāpti-dh.＝tathāgatatva＝t.-āyuṣ-pra=māṇa 如来寿量）

一切の菩薩衆（＝かの一切の菩薩衆と上行等の地涌の菩薩）にとっては

大なる善巧方便を有する如来の知見（t.-jñāna-darśana mahôpāya-kauśalya⇑如来の法 t.-dharma）

上行等の地涌の菩薩にとっては

妙法（Saddharma）＝四句要法

信をもつ善男女にとっては

（義 artha 無礙智により）随宜所説意趣である諸経の anusaṃdhi＝法華経の bhūtârtha を常に知（pra-√jñā）り

弁才（pratibhāna）無礙智により障礙なく（na khiṃ-ci sajati）説き

大地に遊行（vicaranto so medinī）して多数の菩薩を（一乗に住せしめるべく）勧発（samāda=peti＝下種・調熟）して菩提（＝解脱）を得せしめる（＝仏智に安住せしめる bauddhasmi jñā=nasmi sthapemi）

地涌の菩薩（pṛthivi-vivara-samudgama bodhi=sattva）の行用は久成の釈尊の徳用と同等異分の関係にあり

○一切の菩薩衆

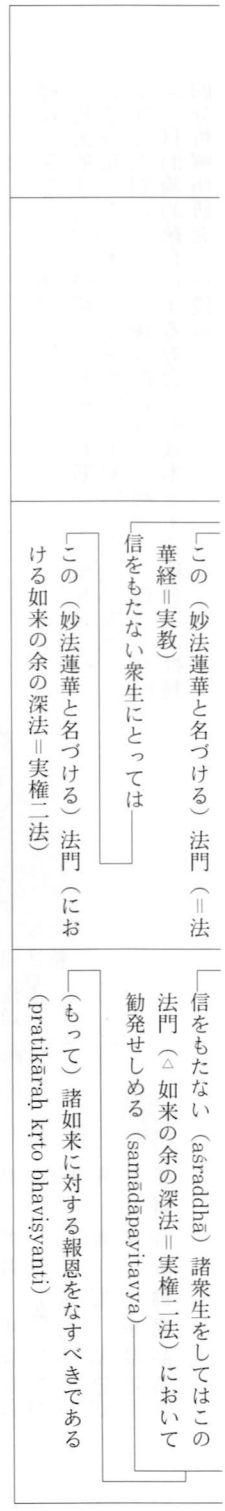
(1)(2)(3)かの一切の菩薩衆（sarva-bodhisattva-gaṇa＝前諸品に登場する旧住・他方来の諸菩薩）

(4)上行を上首とする（viśiṣṭa-cāritra-pramuk=ha）従地涌出せる（下方来の）菩薩

慳恪なく（amatsarin）して（如来の）大なる善巧方便を有する如来の知見（＝如来法 tathā=gata-dharma）を随学すべきである（anuśikṣi=tavya）

（受得の無上正等覚を）領受して受持し読誦し説示し顕説し一切の衆生に聴聞せしめる

（信をもって）来集せる善男子善女人等にこの法門（△此の法華経）を聴聞せしめる



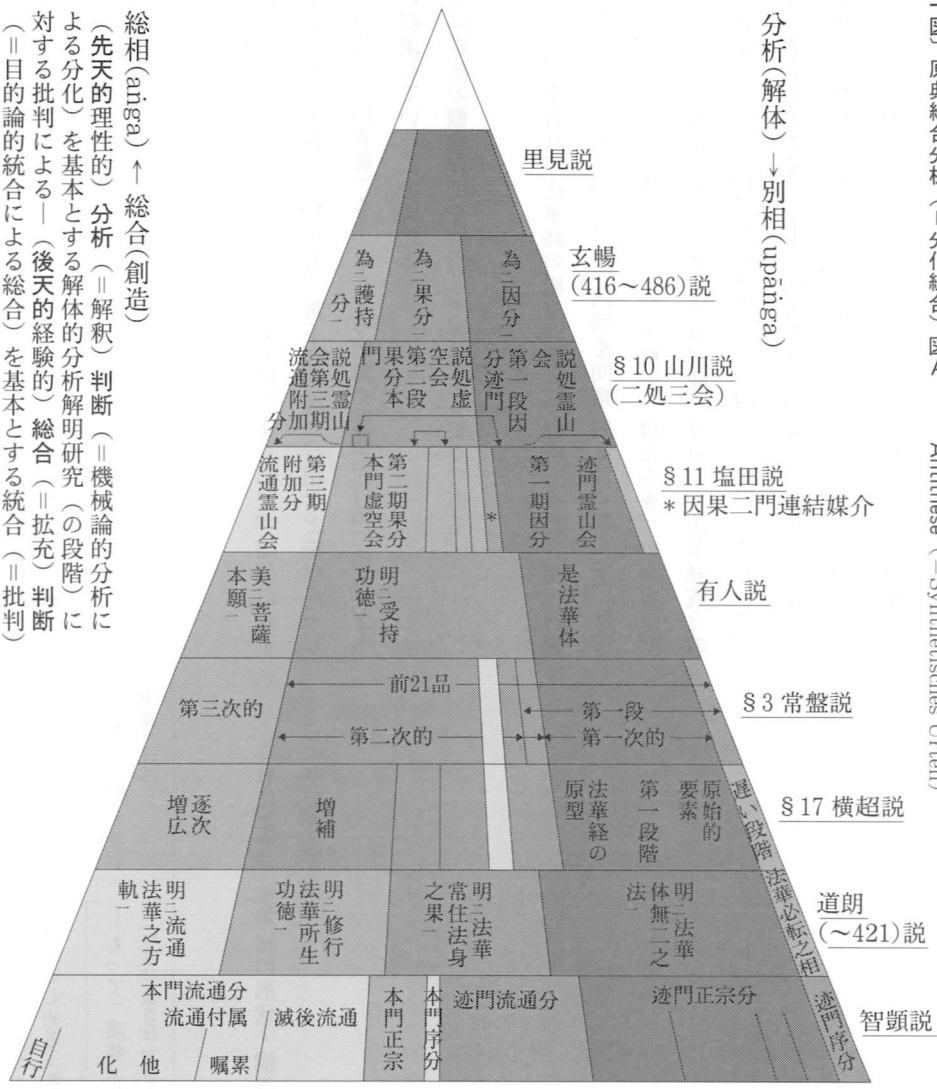
妙法の受持に着目すると、この〔第十図〕よりして、諸品に説示される法師行も菩薩行の特相も、常不軽菩薩の行相などを媒介として、上行等（の四菩薩）を上首とする**地涌の菩薩の行相**に照合して、それに**収束している**ことを知る。

これは妙法の概念作用を解析して帰結する要点である。

ところで、筆者は、法華経の成立諸学説の分析方式の各種の性質を判明 distinct となし、各種の区別を明晰 Clear となして、法華経の形状（かたち）・構造（しくみ）・機能（はたらき）の全容を明瞭ならしめるために、曽（かつ）て拙著『法華経成立論史——法華経成立の基礎的研究——』（平19、平楽寺書店）の四一〇頁以下において、法華経の成立を論ずる二十七の学説を構造機能分析の手法によって分析解体（＝別相 upāṅga）↔総合創造（＝総相 aṅga）を判断して、立体的に比較対照し図式化して、**原典**（を）**総合**（的に）**分析**（した）**図A・B・C**を明示した。転載すると、左の如くである。

これにより、法華経の形状・構造・機能の外相を**認識し熟知**することができよう。

〔第十一図〕原典総合分析（＝分化統合）図A　Antithese（＝Synthetisches Urteil）



［妙法蓮華経］

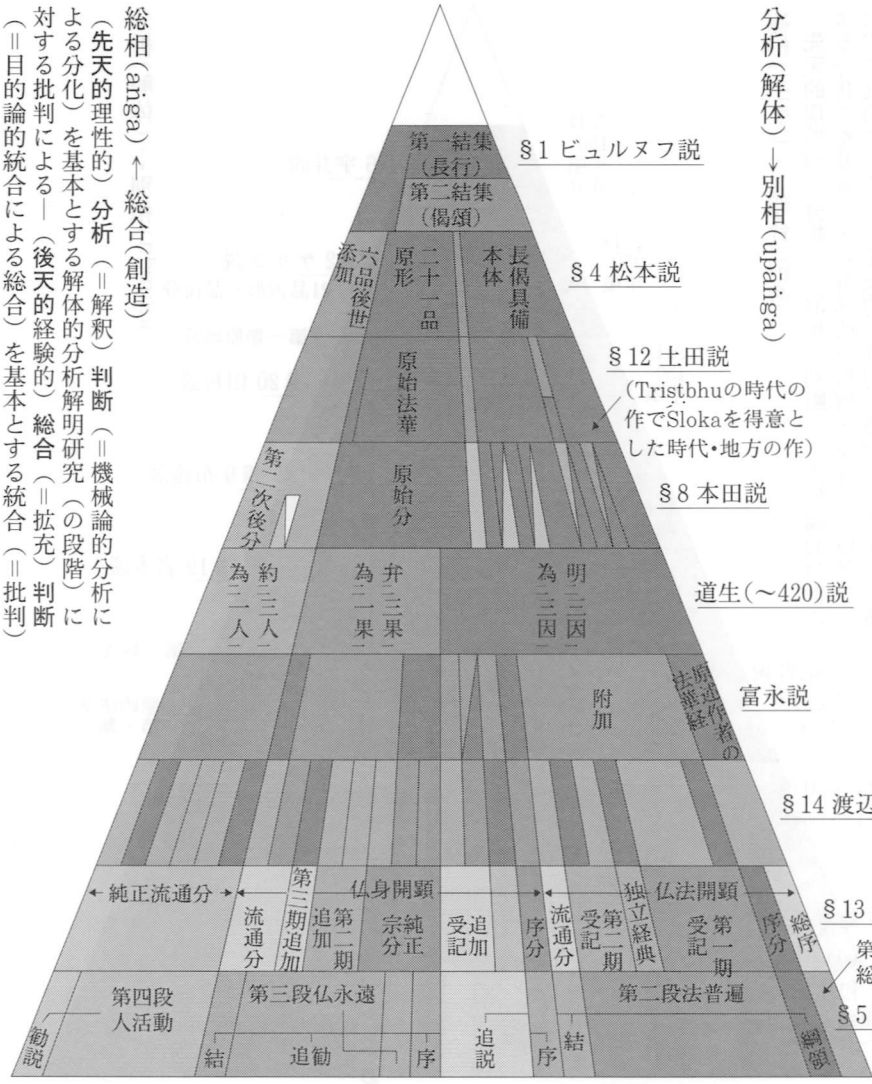
序品第1	方便品第2
譬喩品第3	信解品第4
薬草喩品第5	授記品第6
化城喩品第7	五百弟子受記品第8
授学無学人記品第9	法師品第10
見宝塔品第11	提婆達多品第12
勧持品第13	安楽行品第14
従地涌出品第15	如来寿量品第16
分別功徳品第17	随喜功徳品第18
法師功徳品第19	常不軽菩薩品第20
如来神力品第21	嘱累品第22
薬王菩薩本事品第23	妙音菩薩品第24
観世音菩薩普門品第25	陀羅尼品第26
妙荘厳王本事品第27	普賢菩薩勧発品第28

〔第十一図〕原典総合分析（＝分化統合）図B　Antithese（＝Synthetisches Urteil）

分析（解体）→別相（upāṅga）

総相（aṅga）←総合（創造）

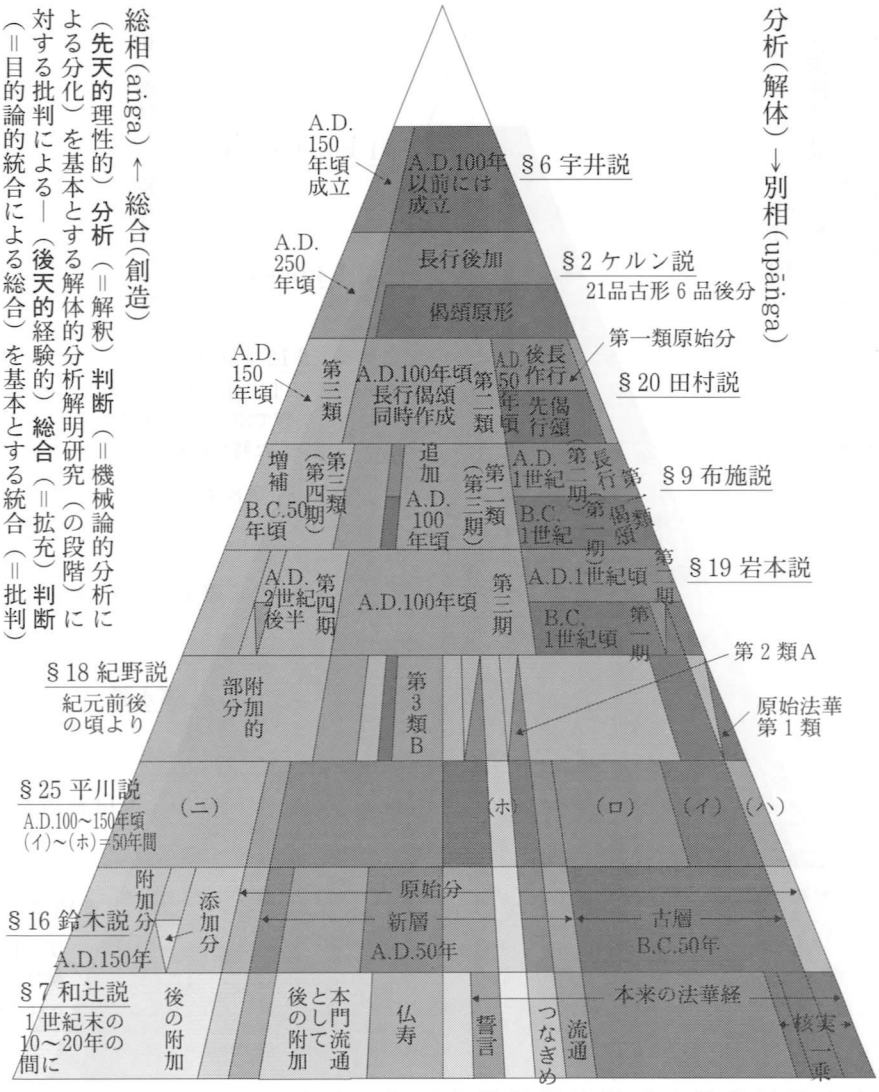
（先天的理性的）分析（＝解釈）判断（＝機械論的分析による分化）を基本とする解体的分析解明研究（の段階）に対する批判による—（後天的経験的）総合（＝拡充）判断（＝目的論的統合による総合）を基本とする統合（＝批判）的分析解明研究（の段階）



〔妙法蓮華経〕

序品	第1	
方便品	第2	
譬喩品	第3	
信解品	第4	
薬草喩品	第5	
授記品	第6	
化城喩品	第7	
五百弟子受記品	第8	
授学無学人記品	第9	
法師品	第10	
見宝塔品	第11	
提婆達多品	第12	
勧持品	第13	
安楽行品	第14	
従地涌出品	第15	
如来寿量品	第16	
分別功徳品	第17	
随喜功徳品	第18	
法師功徳品	第19	
常不軽菩薩品	第20	
如来神力品	第21	
嘱累品	第22	
薬王菩薩本事品	第23	
妙音菩薩品	第24	
観世音菩薩普門品	第25	
陀羅尼品	第26	
妙荘厳王本事品	第27	
普賢菩薩勧発品	第28	

〔第十一図〕原典総合分析（＝分化統合）図C　Antithese（＝Synthetisches Urteil）



しかし同著の中、法華経と妙法と諸品との関係構造を簡潔に明示する**法華経原典**（の）**分析**（判断プラス）**総合**（判断による）**解明図**（これは『坂輪宣敬博士古稀記念論文集・仏教文化の諸相』所収の拙論「法華経成立研究要論――定期間段階集成説――」において再治した）を摘出し、拙論「法華経集成の根本原理（は仏教思想の根本思想なり）」（『法華文化研究』第三四号所収）の結論をもって修正すると、左の如くなる。

この〔第十一図〕によって、法華経の内相を**理解**し**洞察**することができよう。

これは、本論で明示した〔第一図〕乃至〔第十図〕の本質的属性としての種々の部分が、一定の原理（＝**生滅の道理・妙法の二意三義**）によって、必然的関係をもって総合して出来た、いわゆる有機的な（知識の簡明にして根本的な構造機能の）体系である、とも云えよう。

〔第十二図〕法華経原典構造機能分析総合解明

二品一対相依の関係

Saddharma-puṇḍarīka nāma dharma-paryāya = Mahā(-dharma = saddharma)-nirdeśa
nāma dharma-paryāya
Saṃdhā-bhāṣita(= ekayāna)-nirdeśa-dharma-paryāya
Tathāgat' āyuṣ-pramāṇa(= saṃdhā-bhāṣya)-nirdeśa-dharma-paryāya

法華経と妙法の関係

（法華経原典分析総合解明図）[19]

Synthese (analyic judgment + synthetic judgment)

統合の観点より批判による先天的（＝論理的数学的）総合（＝実証的経験的）判断（synthetisches Urteil a priori）を基本とする分析即総合（＝創造的解明研究（の段階）

aṅga＝Superordinate concept

方便品第68(行道)偈 evaṃ ca bhāṣāmy ahu nitya-nirvṛtā, ādi-praśāntā imi sarva-dharmāḥ/caryāṃ ca so pūriya buddha-putro, anāgate 'dhvāni jino bhaviṣyati//68//

縁起法頌 ye dharmā hetu-*prabhavā* hetū teṣāṃ hy avada[t] teṣāṃ⁺ yo *nīroddho*⁺ evaṃ-vādi mahā-śramaṇaḥ (*Vinaya*, I, pp. 40, 41)

雪山無常偈 *anicā* vata saṅkhārā uppāda-vaya-dhammino, uppajjitvā nirujjhanti, tesaṃ vūpasamo sukho'ti. (*Digha-nikāya*, II, p. 157)

Saddharma-puṇḍarīka-sūtra
（妙法蓮華経）
‖
Saṃdhā-bhāṣya-nirdeśa
（随宜所説意趣の説示）
‖ ‖
● tathāgat'āyuṣ-pramāṇa ‖ sadā sthita apari=nirvṛta（常住不滅）
▲ eka-yāna（一乘）‖ sarvajñatā-paryavasāna
(-bhāṣya ‖ *upāya-kauśalya* ‖ *triyāna-nirdeśa*)

■ saṃdhāya yaṃ bhāṣitu ＝anusaṃdhi sūtrāṇa ＝sūtrāṇa...bhūtârtha

寿量品第3(常住此処)偈 *nirvāṇa-bhūmiṃ c'upadarśayāmi* vinayārtha sattvāna *vadāmy upāyam*/na cāpi nirvāmy ahu tasmi kāle ihâiva co dharmu prakāśayāmi//3//

・一定期間段階集成（＝収集・制作・編成）の構造機能根本原理

妙法中最上如 白蓮華（＝於 妙法中 最為 第一）（＝十喩称揚＝釈名 nirukti）

- 色(varṇa)なる修行法(pratipatti-dh.)＝自在神力(vṛṣabhitā),
- 香(gandha)なる証法(prāpti-dh.)＝秘要之蔵(rahasya),
- 味(rasa)なる教法(pravacana-dh.)＝甚深之事(gambhīra-sthāna)

を guṇa として具足する(sampanna すなわち所具として総持する)大良薬(mahā-bhaiṣajya)なる妙法(saddharma)＝所有之法(buddha-dharma).

縁起法(＝生滅の道理)頌(＝法身偈)に依る

［妙法蓮華経］

序品第1	▲方便品第2	譬喩品第3	信解品第4	薬草喩品第5	授記品第6	化城喩品第7	五百弟子受記品第8	授学無学人記品第9	法師品第10	見宝塔品第11	提婆達多品第12	勧持品第13	安楽行品第14	従地涌出品第15	●如来寿量品第16	分別功徳品第17	随喜功徳品第18	法師功徳品第19	常不軽菩薩品第20	■如来神力品第21	嘱累品第22	薬王菩薩本事品第23	妙音菩薩品第24	観世音菩薩普門品第25	陀羅尼品第26	妙荘厳王本事品第27	普賢菩薩勧発品第28

upâṅga
＝Subordinate concept